

2014年(平成26年)3月7日 (金曜日)

木製パズル 被災地へ

小松工高生 26日、園児と交流



木製パズルの仕上がり確かめる生徒
＝小松工高

小松工高の生徒4人は6日、東日本大震災で被災した宮城県内の保育所に贈る木製パズル8組を完成させた。パズルを贈呈するのは今回で5回目となり、生徒らは26日に現地へ初めて足を運んで園児と交流する。

パズルは縦横22・5センチ、50音や濁音など計75字をピースにし、表面に平仮名、裏面に片仮名を記した。美術部と建築部、インター

アクト部の生徒が3カ月かけて制作した。

パズルを贈る取り組みは建築部顧問の袖野貴義教諭が生徒に提案し、2012年12月に始まった。26日に南三陸町の伊里前保育所を訪問し、手紙とともにパズルを届ける。建築部1年の八田知美部長は「パズルで遊ぶ子どもたちを想像しながら制作した。ずっと支援を続けたい」と話した。